

24歳～39歳の男女850人に見る
結婚意識と夫婦像の男女比較

【年齢別にみた男性の意識と行動調査 '92】

【年齢別にみた女性の意識と行動調査 '93】より

◆調査結果の要約◆

結婚は「夢」の男、「現実」の女

1. 「結婚」にこだわるのは男性

「結婚すべきだ」と考える30代未婚者は男性24%に対し女性6%

「結婚にこだわらない」と考える30代未婚者は男性38%に対し女性54%

2. 家庭は「夫婦の愛情の場」と考える女性は男性の半分

〈20代後半既婚〉男性19%が女性は9%、〈30代既婚〉男性11%が女性4%

女性に多いのは「休息・いこいの場」

3. 似て異なる男女それぞれの夫婦像

「夫婦で家事育児を分担し助け合う」のを理想の夫婦像と考えるのが男女とも多いが、男性には「家事は妻の仕事」という認識が未だ根強い

問い合わせ先

ポーラ文化研究所 担当：高谷 村澤

◇調査概要

このレポートは下記の二つの調査より24歳から39歳までの男性450人、女性400人の男女の結婚や家庭に関わる調査結果を未既婚別にまとめたもの。

〔年齢別にみた男性の意識と行動調査 92〕

調査地域：首都圏30キロ圏内

調査対象者：16から65歳までの男性1050人

調査方法：戸別訪問面接および留置法

調査期間：1992 6/19～7/10

対象者年齢区分

高校生	75	42～45歳	100
19～24歳	150	46～49歳	100
25～29歳 (未婚) ※1	75	50～59歳	100
25～29歳 (既婚) ※2	75	60～65歳	100
30～39歳 (未婚) ※3	150		
30～39歳 (既婚) ※4	150		
		合計	1050人

※1 離婚/死別者は含まない

※2 配偶者の専業主婦率62.7% 有子率77.3% 平均1.41 子供の平均年齢4.3歳

※3 離婚/死別者は含まない

※4 配偶者の専業主婦率68.0% 有子率93.3% 平均1.71人 子供の平均年齢5.6歳

〔年齢別にみた女性の意識と行動調査 93〕

調査地域：首都圏30キロ圏内

調査対象者：16から65歳までの女性1000人

調査方法：戸別訪問面接および留置法

調査期間：1993 6/18～7/13

対象者年齢区分

高校生	75	40～44歳	100
19～23歳	150	45～49歳	100
24～29歳 (未婚) ※5	75	50～59歳	100
24～29歳 (既婚) ※6	75	60～65歳	75
30～39歳 (未婚) ※7	100		
30～39歳 (既婚) ※8	150		
		合計	1000人

※5 フルタイム勤務者が77.3% 離婚/死別者は含まない

※6 専業主婦が64.0% パートタイム勤務が17.3% フルタイム勤務が8.0% 有子率81.3% 平均1.62人
子供の平均年齢3.5歳

※7 フルタイム勤務者が68% 独立して仕事が11% 家事手伝いが10.0%。離婚/死別者は含まない

※8 専業主婦が54.7% パートタイム勤務が24.7% フルタイム勤務が10.0%。有子率92.3% 平均1.78人
子供の平均年齢8.1歳

◇調査結果

1. 「結婚」へのこだわり～結婚にこだわるのは男性～

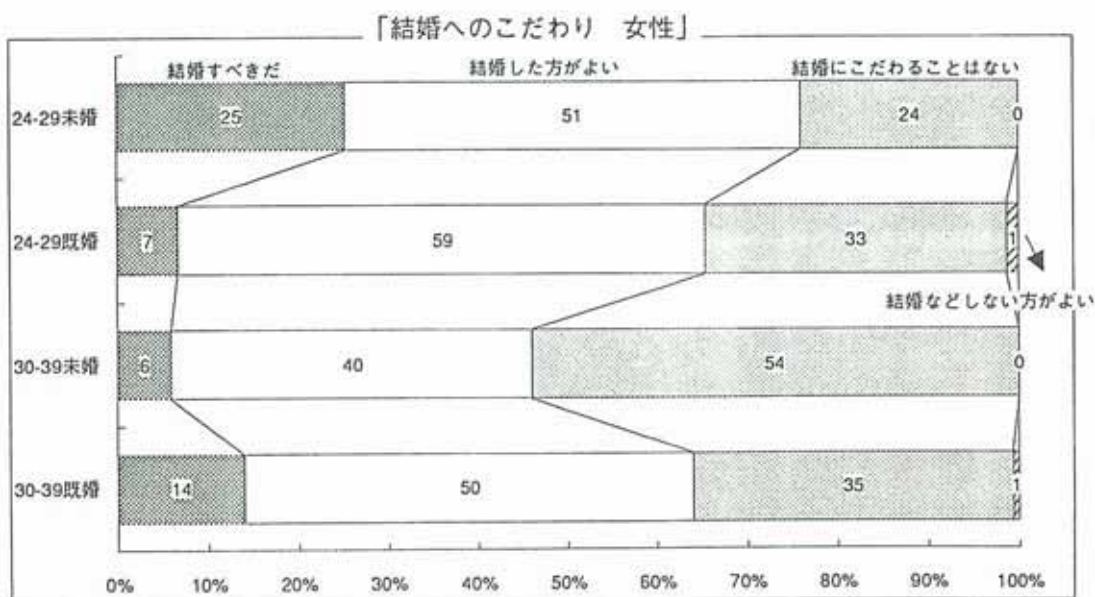
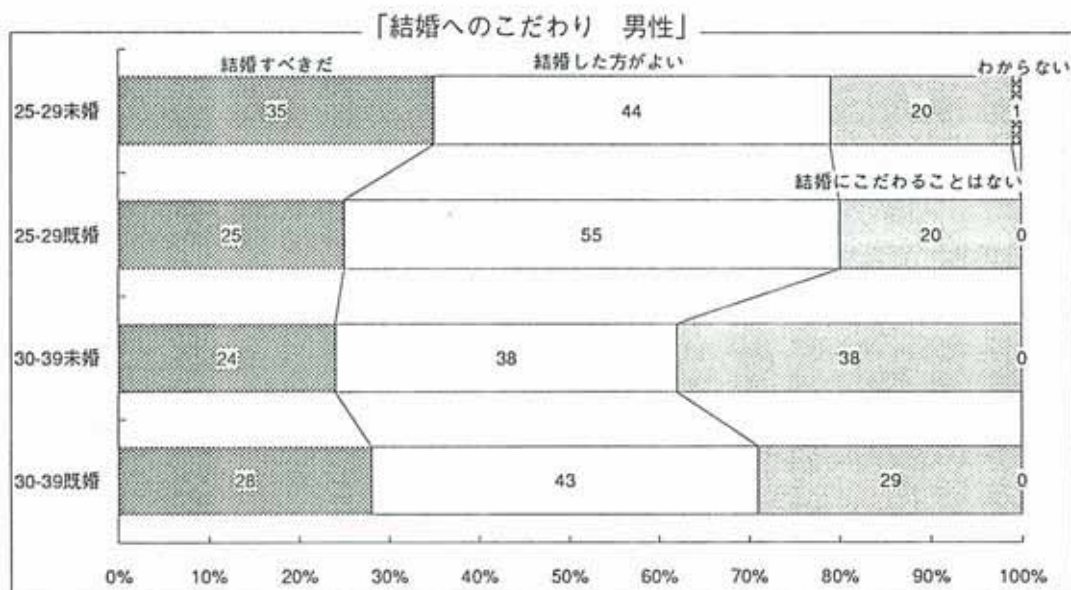
「結婚すべきだ」「結婚した方がよい」「結婚にこだわることはない」「結婚などしない方がよい」の4段階評価で結婚へのこだわりを聞いてみた。

もっとも結婚にこだわっているのは「20代後半の未婚男性」で「結婚すべきだ」が35%と高い。これが同じ年代の既婚男性では25%と10%も減少した。男性全体では「結婚すべき」と「結婚した方がよい」をあわせると半数をこえ、結婚に肯定的と言える。

一方女性も、同じ「20代後半の未婚」でも「結婚すべきだ」と答えた人は25%と少なく、<24～29歳既婚女性>では7%と大きく減っている。<30～39歳未婚女性>になると「結婚にこだわることはない」が54%と過半数を超え、結婚「した方がよい」と考える人が半数を割る。

したがって、結婚にこだわっているのは男性の方で、女性にとっては結婚とは「できる／できない」といったものではなくて「する／しない」ものと考えられているようだ。

30代の未婚の男女を比較すると男性の方が結婚にこだわっているのが一層はっきりする。

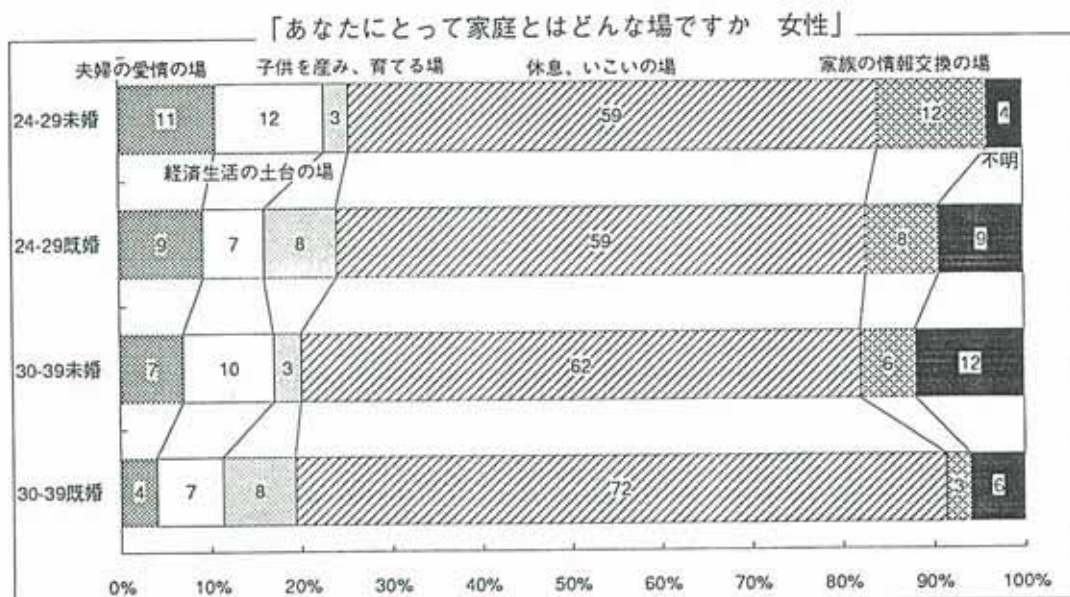
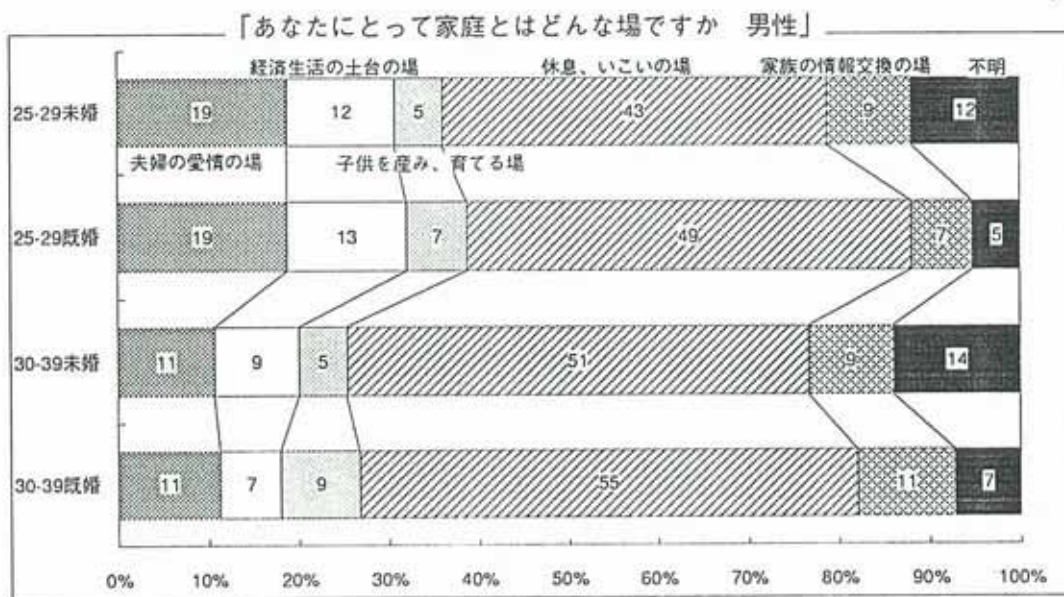


2. 「家庭」をどんな場だと考えるか

～「夫婦の愛情の場」と考える女性は男性の半分～

男女とも「休息、いこいの場」という答がもっとも多いが、男女差が目立つのが、「夫婦の愛情の場」で、20代後半、30代を男女それぞれで比較するといずれも女性の答は男性の半分程になる。20代後半では男性の19%が女性は9～10%、30代男性の11%が女性では4～7%になる。

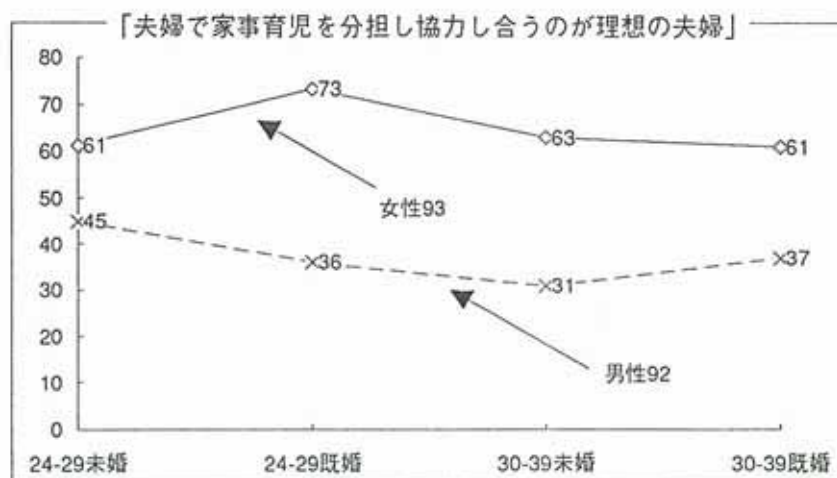
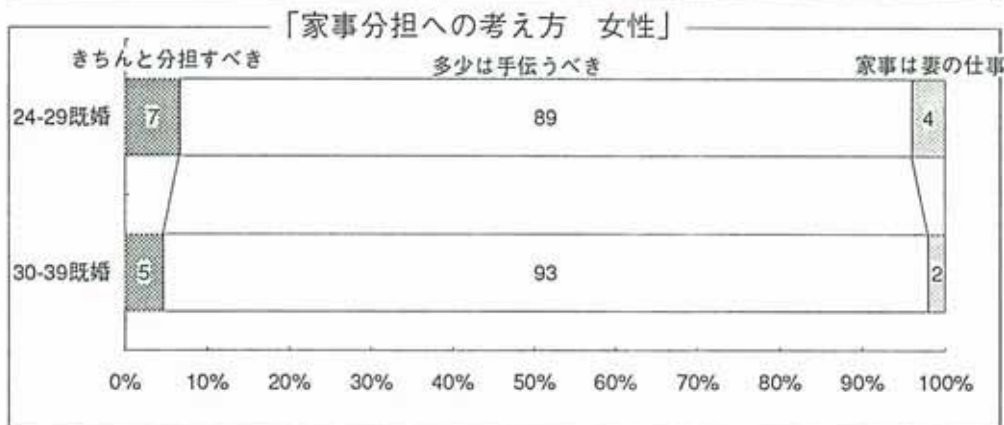
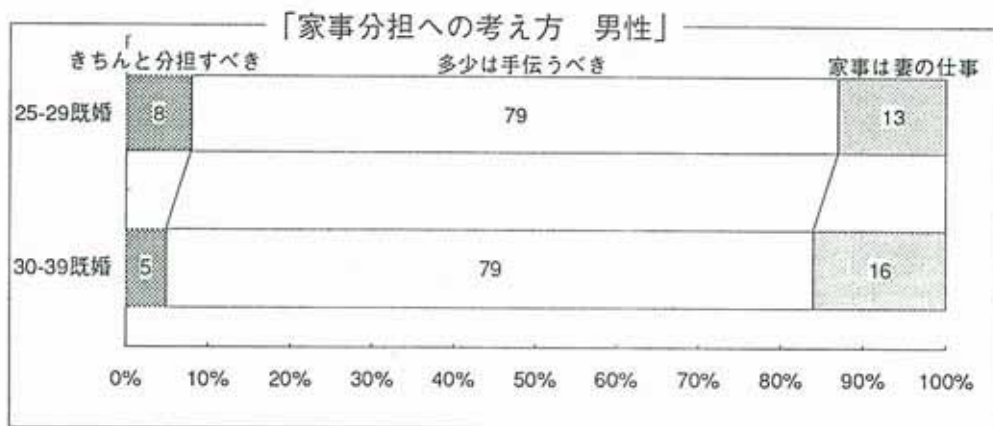
とくに〈30～39歳既婚女性〉では「夫婦の愛情の場」は4%で最小、一方「休息、いこいの場」は72%と最大となっている。



3. 夫の家事分担と夫婦像

「夫の家事分担」に対する考え方を既婚者のみにたずねた。その中身の程はさておき男女とも「多少は手伝うべき」が極めて高い。「きちんと分担すべき」と答えた人は男女とも差がないが、「家事は妻の仕事」と考える男性は20代後半で7%、30代で16%と、女性の20代後半4%、30代2%と同じ年代同士を男女間で比較するとそれぞれ10%ほど男性が高い。

「理想の夫婦像」に関する設問で多い答えは男女とも「夫婦で家事育児を分担し助け合う」だが、その割合を比較してみると大きな差がある。20代後半の未婚を除いて、2倍近いか、それ以上もの開きがある。



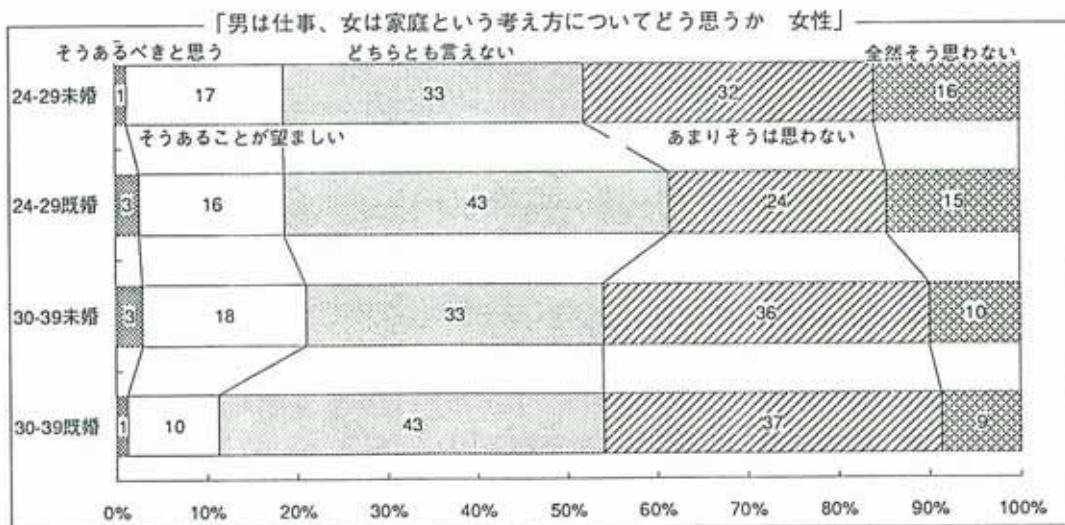
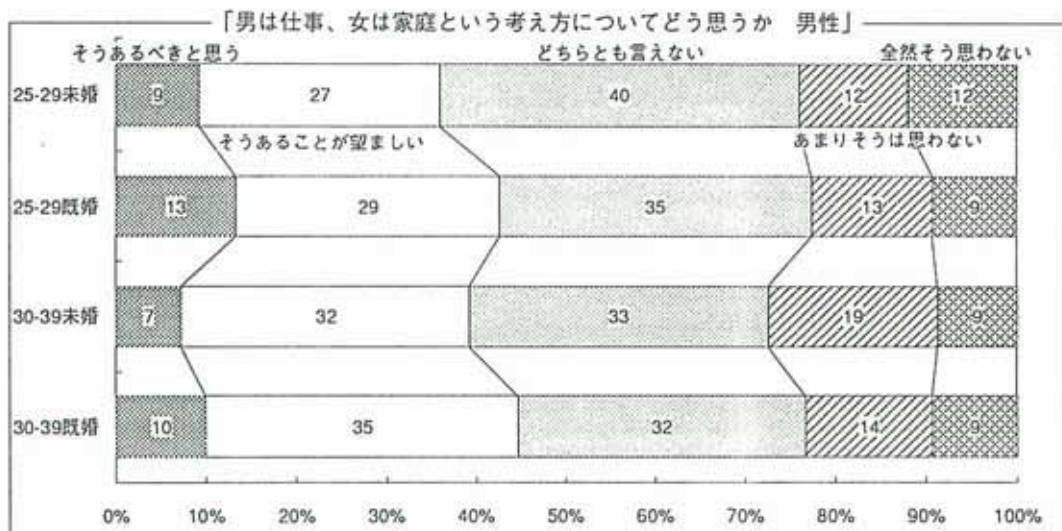
4. 「男は仕事、女は家庭」

設問は「男は仕事、女は家庭についてどう思うか」とたずねたもの。

「そうあるべきと思う」「そうあることが望ましい」の肯定派、「あまりそうは思わない」「全然そうは思わない」の否定派を男女相互で見比べてみるとちょうど裏返しに逆転している。

男性は一貫して「肯定派」が否定派を大きく上回り、女性はその反対になっている。

「どちらとも言えない」が男女とも3割から4割と多いものの、「男は仕事、女は家庭」に関する賛否は男女ではっきりと分かれたと言える。



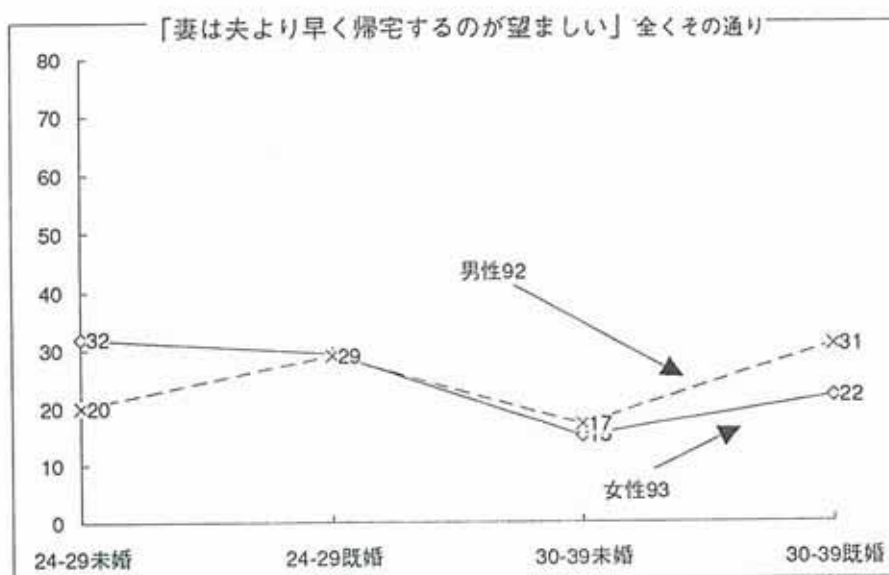
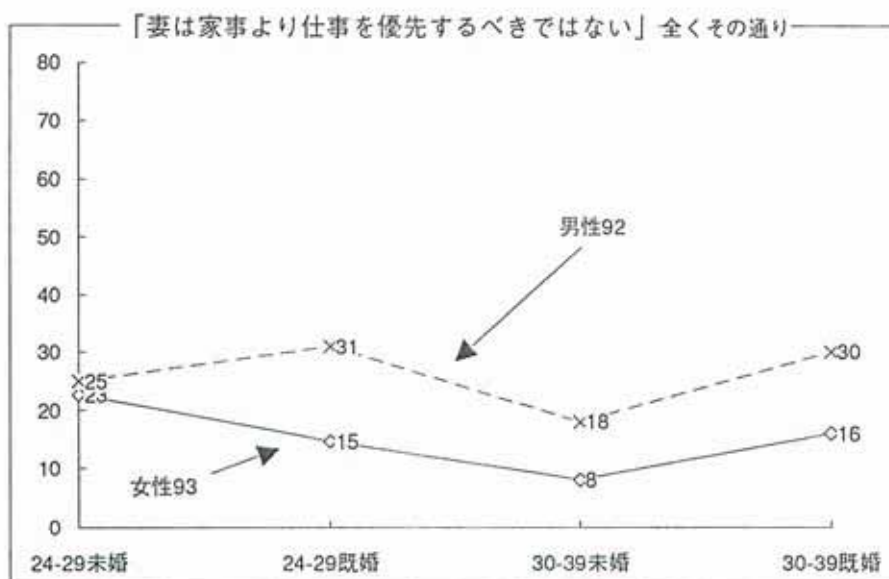
5. 「家事」か「仕事」か

グラフは「妻は家事より仕事を優先すべきではない」「妻は夫より早く帰宅するのが望ましい」との設問に「まったくその通り」と答えた人の割合である。「妻」という立場への一般的な問いかけとして未婚者の答もあえてグラフに示した。

「妻は家事より仕事を優先すべきではない」と考える男性は未既婚を問わず女性を上回っている。20代後半の未婚者では男女は接近しているが、他では10%以上の差がある。

とくに30代の未婚女性は8%と低く「仕事」優先の感がある。男性の30代未婚もまた18%と男性の中ではもっとも低い。

「妻は夫より早く帰宅するのが望ましい」との間については男性が22%、女性が31%と逆転している20代後半未婚、30代既婚を除いては男女の差は小さい。



◇まとめ・考察

これまでの設問に対する答えをまとめて、20代後半から30代男女の夫婦像を男女別にまとめてみると、以下のようなになる。

まず男性はどうだろうか。

結婚へのこだわりはかなり高い。夫としての自分は「家事も多少は手伝い」、理想の夫婦像は「家事分担型」であり、家庭は「夫婦の愛情の場」で結婚に関しては「すべき」だとかなりこだわっている。しかしその実、妻が例えば仕事をしていても「夫より早く帰宅」し、「家事を優先的に取り仕切る」ことを、あくまでも前提としている。

一方で、上の結果は女性の常識とはかなり食い違っている。

「家事分担型」の夫婦を理想としているが現実の夫の「家事分担」にはまだまだ期待できない。妻が仕事を持っていればある程度「家事よりも仕事を優先」せざるを得ないのは当然だが、夫よりも「先に帰宅」する必要性を感じてはいる。家庭の役割は「休息、いこいの場」となっている。さらに未既婚を問わず結婚すること自体にはさほどこだわらない。

男性は結婚にあくまでもこだわっているのに対して、女性はさほど結婚にはこだわらない姿勢をみせるのはなぜだろうか。

特に首都圏でいちじるしい晩婚化の進行は「結婚適齢期」という言葉に縛られがちだった女性たちから結婚へのプレッシャーを弱めた。一方で企業社会にいまだにどっぷりとつかっている男性たちにとっては、結婚はまだ人生の必須条件である。世帯をかまえるか否かで本人の信用までも問う企業もあると言われている。男性にとって結婚とは一つのステップだが、逆に女性にとっては結婚は選択肢の一つになりつつあるようだ。

このことをいわば、メンツの男性、ホンネの女性とでもいえるだろうか。

結婚へのプロポーズは伝統的に男性の役目だが、対する女性の役目はもはや「その瞬間を待っている」という古典的なものではなく自分の人生観にしたがって「決断を下す」ことへ変わっていくだろう。